



四 気 折 々

川越町立川越中学校
学校だより第15号
令和4年7月19日

四気＝川越中学校訓 「やる気 ほん気 こん気 げん気」

学校教育目標 『自立した生徒の育成 ー自律・調和・創造ー』のもと

- ・自分を大切にする
 - ・他者を大切にする
 - ・粘り強くやり切る
 - ・人を大切にする
 - ・安全で安心できる
 - ・地域や保護者とともにある
- 生徒 学校 づくりを目指します

川越中が大切にしたい教育『いのちの大切さを考える講演会』

鷲見 三重子さんの講演会から、「いのちの大切さ」について真剣に考えてみる。今回は「出会い学習です」。鷲見さんの「生き方に触れてみる」。出会って欲しかった理由。

【川越中学校HPでも同様の内容を紹介しています】先週、7月13日（水）2・3限目に講演会を実施しました。川越中学校が大切にしている取り組み『いのちの大切さを学ぶ（考える）講演会』です。講演を聴くことはもちろんのこと、講演をしてくださる講師の方々との出会いの中で、子どもたちが「いのちの大切さ」を考え、気づき、そして自分事として受け止め、学んでほしいという思いのもと、講演会を実施しました。

講演会の内容もちろん大切ですが、それ以上に大切にしたいと考えていたことは、鷲見三重子さんとの出会いです。その理由は、『鷲見さんの生き方に触れてみる』こと。

鷲見さんの講話からは、みなさんはもちろんのこと私たち教職員も多くの学びがありました。鷲見さんは、ご自身の息子さんを交通事故で亡くされ、その悲しい体験を子どもたちや多くの方々に伝えることで、交通事故の数を減らしていくこと。自分の大切ないのちについて考えることは、自分を支えてくれる大切な人たちのいのちについても考えることにつながる。そのようなことを正面から向き合い、わかりやすく丁寧に心を込めてメッセージを送り続けていただいています。鷲見さんの生き方。少しでも感じてもらえたら・・・。

今回の講演会は、感染症対策として1階小会議室から、すべてのクラスにオンラインで配信する形となりました。鷲見さんはタブレットの画面を通じて見える川越中学校の子どもたちに向けて、優しく語りかけるようにお話いただきました。画面から見えるどの生徒もみんな一生懸命に鷲見さんのお話を大切に聴いていました。話を聴いている子どもたちの中には、鷲見さんのお話から、うつむいて涙をぬぐっている子どもたちもいました。講演会のあとは、各クラスにて素直な想いを感想としてまとめてくれました。

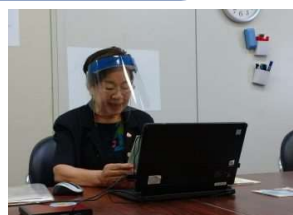
【1年生生徒の感想から】

「今日、いのちの講演会がありました。なんか、ニュースの人が言っても他人事とは思えなかったことが、その本人の家族の方が言っているととても他人事とは思えなかった。」

【3年生生徒の感想から】

「この授業を受ける前までは、こうした交通事故のことを一度も考えたことがありませんでした。しかし、今日、鷲見さんの話を聴いて思わず涙がこぼれ落ちてしまいました。大切な人を交通事故で失った気持ちは、どれくらいつらいものかを完全に理解するのは難しいとわかっていても、心が痛くなり、涙が止まりませんでした。これからも講演を続けてほしい。『いのちの大切さ』を伝えてほしい。」

今回の講演会は、三重県警察本部、そして、みえ犯罪被害者総合支援センターと連携した講演会となっています。鷲見三重子さん、心のこもった講演会、そして、出会いをありがとうございました。川越中学校がこれからも「いのちの大切さを考える講演会」などの取り組みを大切に、安心・安全な学校づくりを進めていきます。



夏休みに入る前に、みなさんに考えてほしいこと。

『 自転車事故の被害者にも加害者にもならないために 』そして、
『 大切ないのちを守るために 』 できること。

先週、三者懇談会中、「自転車と自動車の接触事故」がありました。幸い大きなケガにつながらなかったのですが、一歩間違えば「大切ないのち」にもかかわる大事故に……。また、自転車でも十分に加害者となることも。夏休みは、普段よりも自転車に乗る機会も増えてくると思います。

『自転車なら大丈夫！』ということはありません。いつでもどこでも自転車事故に巻き込まれる可能性があるかわかりません。『自分の大切ないのちを守るために』考えよう！



左の写真は、事故現場です。国道一号線「川越町いきいきセンター前」の信号を東側に入ってすぐの交差点（川越あさひ眼科横）での自動車との接触事故。部活動を終え自宅に向かって自転車に乗って急いで帰宅しようとした際、写真の地点での交差点をファミリーマート側から北進しようとした本校生徒1名が、一旦停止線を止まらず直進【この交差点は、建物によって東側（川越幼稚園側から）から来る自動車等がなかなか見にくい場所です】。一旦停止をせず、自動車が来ていることを確認せず直進したことによって自動車と接触。自転車ごと倒れて本人も転倒。

その場では擦り傷だけと思っていたようですが、時間が経過するにつれ転倒した際に打ち付けた肩（腕も含む）付近に強い痛みを感じるようになり、病院に診察に行ってもらいました。接触によって、気持ちが動転したままだったこともあり、自動車の運転手から「大丈夫か？」と聞かれたようですが、本人は「大丈夫です」と伝えたことによって、その自動車は1号線方向に走り去っていったようです。

【 この事故から考えてほしいこと。そして、こうしたらよかったと思うこと 】

- ① 事故にあった生徒はヘルメットを着用していたことで、接触した際でも大切な頭部を守ることができた。
- ② 接触した自動車のスピードがもっと出ていたら大けがにつながります。必ず交通ルールを守り、見通しの悪い場所では「一旦停止」を必ず行う・左右から自動車や自転車等がないかをしっかりと確認すること。
- ③ 時間にゆとりを持って自転車にのること。急いでスピードを出すと事故につながる危険性が高いです。
- ④ 交通事故に遭った際は、「大丈夫です」と伝えず、保護者（自宅）・学校・警察に必ず連絡をしてもらうこと。今回の事故は、自転車で転倒した生徒の手当てもせず、「大丈夫か？」と聞いただけで走り去った自動車は「ひき逃げ」になります。

この自転車事故は他人事ですか？自分事として考えることができますか？

保健室担当の『 吉田 絃子 先生 本当にありがとうございました！ 』
『 林 里奈 先生 これからお世話になります。よろしくお願いします！ 』

先週、7/14 配付文書にて、本校保健室担当教員の吉田絃子先生のお休みと、林里奈先生の着任を紹介いたしました。2名の先生からのあいさつを通信にて紹介させていただきます。



【 吉田 絃子先生から 】

この度、新しい命を授かり、しばらくお休みをいただくことになりました。生徒の皆さん、そして保護者の方々からも温かいお言葉をいただき大変感謝しております。生徒の皆さんと過ごしてきた時間は、私にとってかけがえのないものになりました。私はこれから初めての出産、育児を経験することになりますが、より子どもたちの気持ちに寄り添えるような養護教諭となって戻ってきたいと思っています。 本当にありがとうございました



【 林 里奈 先生から 】

こんにちは、新しくお世話になります。林 里奈です。未熟な部分も多いですが、子どもたちの心身の健康を支えるため、全力を尽くしますので、よろしくお願いいたします。保健室でお待ちしております。

